

平成25年（2013）7月 入域観光客数概況

7月の観光客数は、58万3,900人
対前年（H24）同月比 +3万3,500人、+6.1%
～7月の過去最高を更新～

入域状況

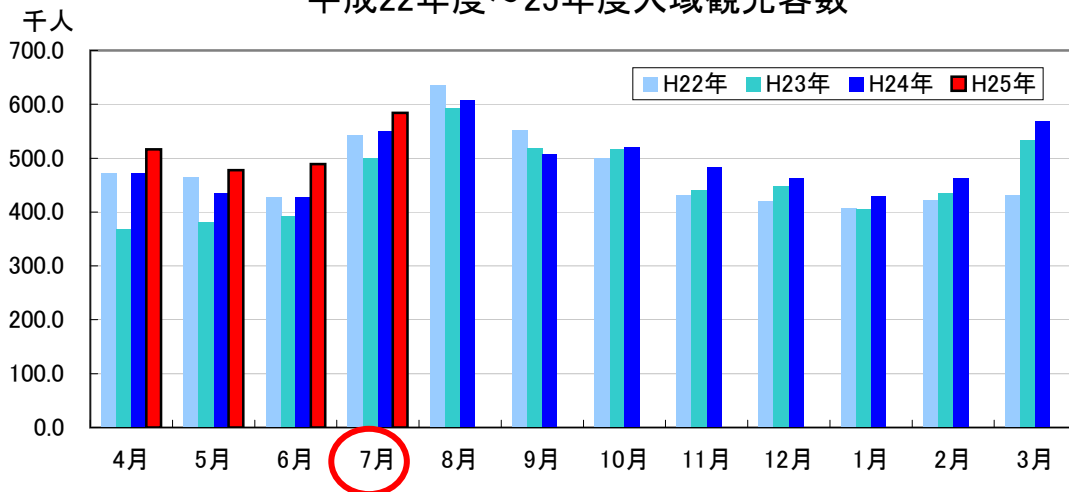
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	518,700 人	482,500 人	+ 36,200人	+ 7.5%	88.8%
外国客	65,200 人	67,900 人	△ 2,700人	△ 4.0%	11.2%
合計	583,900 人	550,400 人	+ 33,500人	+ 6.1%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	518,700 人	482,500 人	+ 36,200人	+ 7.5%	90.2%
外国客	56,400 人	53,600 人	+ 2,800人	+ 5.2%	9.8%
合計	575,100 人	536,100 人	+ 39,000人	+ 7.3%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

7月は、新規航空路線の就航や季節運航路線の再開により、関西方面を中心に好調に推移した。特に、八重山方面への旅行需要は引き続き高く、全体を牽引している。台風7号の影響により石垣及び宮古路線に欠航があったが、上旬及び中旬の好調さがカバーした。

8月は、夏場の沖縄への旅行需要は安定しており、週末の台風襲来が相次いだ昨年8月より、上回る見込み。

外国客 入域状況

7月は、昨年好調であった中国からの大型クルーズ船寄港がなかった反動から、前年を下回った。ただ、昨年比で航空路線の拡充された台湾、韓国は増加しており、北京路線が再開された中国の旅行需要も徐々に回復傾向にある。

8月以降、学生の夏休みに加え連休も続く台湾、韓国を中心に増加が見込まれること、また、中国市場もトップシーズンのため旅行需要が高まっていることから、堅調な推移が見込まれる。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	266,900 人	251,400 人	+ 15,500人	+ 6.2%	51.5%
関西方面	104,100 人	88,300 人	+ 15,800人	+ 17.9%	20.1%
福岡方面	59,100 人	57,300 人	+ 1,800人	+ 3.1%	11.4%
名古屋	41,800 人	38,200 人	+ 3,600人	+ 9.4%	8.1%
その他	46,800 人	47,300 人	△ 500人	△ 1.1%	9.0%
合計	518,700 人	482,500 人	+ 36,200人	+ 7.5%	100.0%

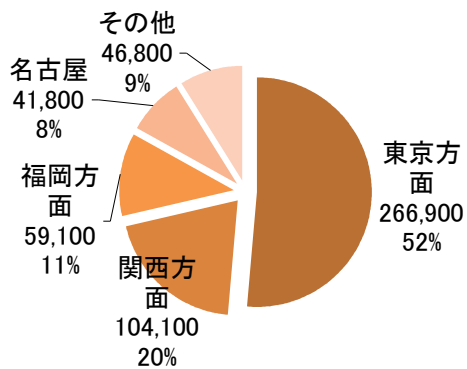
※国内海路客 2,100人を含む(関西:100人、鹿児島:2,000人)

外国客 国籍別入域状況

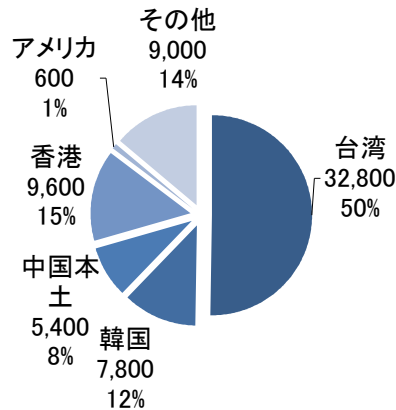
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度 (特例除く)	H25年度 (特例含む)	H24年度 (特例含む)	増減数	増減率	構成比
台湾	32,800 人	32,800 人	23,200 人	+ 9,600人	41.4%	50.3%
韓国	7,800 人	7,800 人	2,500 人	+ 5,300人	212.0%	12.0%
中国本土	3,400 人	5,400 人	18,700 人	△ 13,300人	△71.1%	8.3%
香港	9,600 人	9,600 人	8,200 人	+ 1,400人	17.1%	14.7%
アメリカ	600 人	600 人	600 人	△ 0人	0.0%	0.9%
その他	2,200 人	9,000 人	14,700 人	△ 5,700人	△38.8%	13.8%
合計	56,400 人	65,200 人	67,900 人	△ 2,700人	△4.0%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	20,400 人	20,400 人	+102.0%	46.5%	12,400 人	12,400 人	△5.3%	58.2%
韓国	7,800 人	7,800 人	+212.0%	17.8%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	3,400 人	3,400 人	△37.0%	7.7%	0 人	2,000 人	△85.0%	9.4%
香港	9,500 人	9,500 人	+20.3%	21.6%	100 人	100 人	△66.7%	0.5%
アメリカ	600 人	600 人	+20.0%	1.4%	0 人	0 人	皆減	0.0%
その他	2,200 人	2,200 人	+4.8%	5.0%	0 人	6,800 人	△46.0%	31.9%
合計	43,900 人	43,900 人	+54.0%	100.0%	12,500 人	21,300 人	△45.9%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

7月は、国内の旅行動向が全体として好調であり、沖縄方面への旅行需要も高まった。特に八重山方面への旅行は、航空路線の拡充もあり大きく増加した。
8月は、web商品や安価なパッケージ商品を中心に前年並みの売れ行きとなっており、台風の影響は懸念されるものの、現状では盆休み期間中の航空便の予約が前年を超え、臨時便も予定されていることから、堅調な推移が見込まれる。

大阪

7月は、関西方面からの那覇及び石垣路線の拡充が大きく影響し、前年を大きく上回った。特に八重山方面の旅行人気、新石垣空港の開港以来続いている。
8月は、例年より旅行商品の販売状況が芳しくないが、旅行直前で予約が入る傾向もあり、安価な商品を中心に追い上げが期待できる。9月は、学生旅行を中心に堅調に推移する見込み。

福岡

7月は、旅行商品の販売は前年並みだが、web商品利用及びビジネス客が多いためか前年に比べて微増となった。
8月は、夏終盤の旅行商品の販売状況が改善していること、また、7月から運航を再開した福岡－石垣路線も前年以上の伸びを記録し、10月の運航終了まで八重山方面への旅行は好調な推移が見込まれることから、前年並みの実績は期待できる。

名古屋

7月は、学生の個人旅行を中心に好調に推移した。中部－石垣路線も引き続き好調である。
8月は、盆休み期間中の航空路線の予約状況も昨年を上回っており、観光キャンペーン対象の家族旅行及び学生旅行を中心に好調な推移が見込まれる。製造業が多い地域のため、景気回復の影響を受けやすく、今後、旅行需要への良い影響が期待できる。

台湾

7月は、昨年比で拡充された航空路線の影響もあり、空路客が大幅に増加した。
8月以降、航空路線、クルーズともに予約は好調で、特に9月18日からの5連休は、沖縄旅行商品が完売状態である。10月までは好調を維持する見込み。

韓国

7月は、アジアナ航空の機材大型化及びジンエアーのデイリー運航開始に加え、中旬からの夏休みにより旅行需要が高まり、個人客を中心に好調に推移した。
8月は、連休及び学生の夏休みに伴い旅行需要が高く、航空路線の予約状況も好調なため、前年を上回る見込み。また、9月には那覇及び宮古へのチャーター便も予定されており、好調に推移する見込みである。

中国本土・北京

7月は、昨年10月から運休していた中国国際航空が運航を再開した。搭乗率は8割近くで好調な様子である。メディアなどを対象にした現地訪問ツアーや天津外国語大の教育旅行が行われ、今後のPR効果に期待が持てる。
8月は、訪日旅行需要が回復傾向にあり、沖縄旅行商品の販売状況も好調で、昨年並みは望めないが、徐々に回復していく見込み。

中国本土・上海

7月は、昨年大型クルーズ船寄港の反動により、入域観光客数は昨年比で大幅減となったが、航空路線を利用した個人客は回復傾向にある。
8月は、北京同様、訪日旅行需要が回復傾向にあり、上海－那覇路線の予約状況も現時点で悪くないため、沖縄への旅行も順調に回復する見込み。

香港

7月も円安が牽引して訪日旅行需要が依然高く、沖縄旅行商品についても完売状態であった。
8月、9月は、例年安定した旅行需要があり、引き続き好調に推移する見込みである。10月については、夏場に比べて旅行需要が減退するものの、昨年同時期と比較し円安傾向が続いているため、旅行社の団体旅行商品の販売強化に期待したい。